

## 葛尾村の復興への取り組み

芥川 一則 (福島高専)

### 1. はじめに

葛尾村の過去

震災の状況

仮設住宅

### 2. 葛尾村再生プラン

計画の位置付け

計画策定の経緯

### 3. エコ・コンパクトブリッジ

①住まい・絆    ②安全・安心    ③産業再生・活力

### 4. まちなかの拠点づくり

### 5. 農業・集落の拠点づくり

### 6. 実現に向けて

## 第84回ふくしま復興支援フォーラムでのご意見等

第84回ふくしま復興支援フォーラムを、2015年1月29日に開催しました。

岩崎由美子氏(福島大学教授)から「食と農でつなぐ ー福島女性農業者の取り組みー」について、報告がありました。

32名の方が参加し、活発な質疑応答がありましたが、会場で提出されたご意見等は、ご紹介します。

~~~~~

★ 被害者と加害者という区分だけでなく、被害者の中にも支援にまわる人たちもいることを知り、勇気もらった感じがしました。ステレオタイプではなく、多様性を認める視点が必要ですね。(N.O)

★ 多様性を認め合う社会が、社会から発信できるかどうか。今なお、その考えが個人、ないしは少数であるという状況のように思う。どうできるかの一つの動き、力が『食と農でつなぐ 福島から』の中に書かれていると思います。(M.K)

★ 農村女性起業の今後の課題は、農業者と消費者間の情報共有と考える。このようなコミュニティビジネスを存続させるためにも、行政の財政支援と起業化の行動力、両輪のバランスが必要と感じた。(J.O)

★ 「かーちゃん」は強い！(Y.M)

★ 農村と都市/fair tourism, fair trade, fair relationship は本質的な関係についての提起と思います。(H.S)

★ 「地方創生」「地方の時代」と言われていますが、最も大切なものは、「地域の人たちの力」ではないかと思いました。「食ること」「農業」をつなぐこと。漠とした放射能の不安を測定することの大切さ、情報を発信することの必要性を考えさせられる講義でした。(T.I)

★ TPP、農協解体等全国的に厳しい環境の中、福島はさらに原発に苦しんでいる。カープロの力強さを感じました。住民の生業、住居の復旧には、住民主体、地域資源活用、都市・農村の苦しみと喜びの共有という交流など大切と非常に感じました。生産者・地域・被災者に寄り添った先生の調査からの主張には説得力があります。ありがとうございました。(S.S)

★ 昨年12月の藤田さんの回に続いての2回目の参加となります。具体的なエピソードに引き込まれました。大変勉強になりました。(K.M)

★ 具体的な話が多く、しかも興味深い話だった。よくインタビューされていると感心しました。(N.I)

★ 農業と自分達の仕事に誠実に取り組む人達の話が聞けて良かったです。ただ、米の全袋検査で基準値超え0になった事について、岩崎先生は相当期待されているようですが、残念ながら現在の状況で

は、好転材料にならないと思います。「今の報道では、基準値超え0」のみが強調されているけれども、それを達成するための対策や生産者の努力が、消費者や流通業者に認知されていないため、基準値を上げた、今までは基準値超えのものが流通していたと誤解している人も多い。もっと福島の生産者の努力や安全を守るための対策をどのように構築していたかを、県外の人に知らせるための努力が必要だと思います。(K.Y)

★ 途中退出せざるを得ませんでした。感ずることもありましたが、取り組みに敬意を表します。ありがとうございました。(S.M)

★ 岩崎さんのご発言にあった「小文字の復興」、また後半で、塩谷さんの補足にあったが、ひとつの有様だけでない。共存共栄型・ネットワーク型の、女性が生き生きし、多様性を内包しつつつながる地域づくり、地域再生・・・ここらへんが印象に残りました。小高の「浮舟の里」もそうですが、女性のパワーはすばらしいです。(K.H)

★ 回を重ねたフォーラムの中でも、明るい展望が感じられたお話でした。とみ子さんのお話を含めて、元気ができました。(T.S)

★ 農村女性達の価値観に共感します。ありのままを見せて、伝える姿や、交流の意味など、本気でなければ分かり合えない、分かり合えれば非常に強いものだと思います。(H.S)

★ 自分達の活動がやってきた事を改めて紹介されて、飯舘村でやってきた活動が、活動へのきっかけとなる生き方、考え方が、この原発事故でためされたような気がする。しかし、私は決して特別の事をやってきたのではない。ただ、カープロの活動が、今後、次世代につなげるものになれたらと思っています。この本は多くの方に知っていただきたい。(T.W)

★ コミュニティビジネスを進めていく上で、価値の転換が必要と思いました。まさにお金の世界から、いのちの世界へという転換が必要です。また、「一人一人の顔が見える、分かる関係」を取り戻していかなければと感じました。(Y.I)

★ ネットワーク、村民、足が地についていないように感じました。(M.S)

★ “復興”と“女性”というキーワードに興味をもち、また先生に勧められて参加させていただきました。今日の講演の中で、「支援される側」から自分の信念に基づき、能力を発揮することで「支援する側」へと転換される、ということが印象的でした。いつまでも被災者でいられない。若い自分たちが福島の復興に貢献せねば！！と改めて考えさせられました。“福島で生きていくということ”について、自分自身で良く考えてみようと思いました。女性は強いということをもっと知って欲しいと切実に思っています。(K.S)

★ 今回初めて、参加させていただきました。貴重な講話をありがとうございます。「女性」・「復興」という言葉に興味をもち、また先生から紹介・勧めていただき、多に学ぶことができました。農村女性起業について、知らなかったことが非常にあり、自分の無知さに反省させられました。同じ女性として懸命に復興を考え、起業している女性がたくさんいることを知り、自分にはいったい何ができるか真剣に向き合ってい

きたいと思います。また、野菜を細かい所まで測定し安全性を発信することで、農業者としての葛藤はあるものの、お金に頼らず自立する地域になるためにも、農業の重要性を拡大させていくべきではないかと考えました。今後の講義やアクティブラーニングに活用していきます。ありがとうございました。(H.U)

~~~~~

【予告】第86回フォーラム 2015年2月26日(木) 18:30~20:30

「トラウマに弱い方々の理解と対応～大震災を中心として」

報告者：星野 仁彦 氏(福島学院大学大学院教授/精神科医)

会場：福島市アクティブシニアセンター「AOZ (アオウゼ)」視聴覚室

~~~~~

【予告】第87回フォーラム 2015年3月18日(水) 18:30~20:30

「OECD東北スクールの取組み ～ふくしまから新しい教育の創造～」

報告者：三浦 浩喜 氏(福島大学教授/美術科教育学)

会場：福島市アクティブシニアセンター「AOZ (アオウゼ)」大活動室1

~~~~~

【予告】第88回フォーラム 2015年3月26日(木) 18:30~20:30

「原発事故と予防衛生」

報告者：田中 正敏 氏(福島県立医大名誉教授)

会場：福島市アクティブシニアセンター「AOZ (アオウゼ)」大活動室1

~~~~~

【予告】第89回フォーラム 2015年4月8日(水) 18:30~20:30

「よりそいホットライン1千400万件のアクセス分析が示す被災地の今と日本の今」

報告者：熊坂 義裕 氏(社)社会的包摂サポートセンター 代表理事)

会場：福島市アクティブシニアセンター「AOZ (アオウゼ)」大活動室3

~~~~~